

第20回 令和7年5月14日（水）

「ウクライナとロシアの停戦が難しいわけ。」

世界のニュースで大きく取り扱われている話題として、ゼレンスキーア大統領がトルコに行って現地でプーチン大統領と会うのではないかと言われています。

どうしても遠い国の出来事のように思えますがロシアは日本の隣国です。この国の動静は日本にも大きな影響を与えますし、北方領土で国境を接している国という事実は重要です。

両国の停戦を難しくしている理由は何でしょうか。

あるアパートがあります。このアパートでは部屋を真っ赤に塗りたい人と、真っ青に塗りたい人がいます。双方ともできればアパート全体を一色で塗りつぶしたいと思っています。

赤い部屋と青い部屋の真ん中に、どちらの色にも染まらない白い部屋がありました。お互いの陣営はここを塗りたい気持ちもありましたが、この部屋があることで安心できる気持ちもありました。これを専門用語で「緩衝国」といいます。

ある日白い部屋が急に真っ赤になりました。すぐ隣は青い部屋ですから、お互いに相手が塗りに来るかもしれない不安な日々を過ごすようになりました。

これがウクライナのNATO参加ということなのです。NATOのミサイルの射程距離にプーチンのいるモスクワも入ってしまったわけです。

できればこれ以上犠牲者は出ないでほしいし、停戦は実現してほしいです。ただ緩衝地帯のない陸続きの対立国は常に緊張を強いられる状態にあります。そしてロシアは歴史上ずっとその恐怖を抱えてきている国なのです。

最終的に停戦の条件としてNATOの不拡大が必須になるのかなども思っていますが、結果は不透明です。そしてインドとパキスタンも同じ。結局隣国なのでこれからも緊張は続くでしょう。

これが北方領土の返還されない原因にもつながっています。日本はアメリカの同盟国なので返還するとアメリカの軍事基地ができる不安もあり、ロシアは返還に応じません。

日本が海に囲まれた国ということが平和に大きくつながっているのがわかります。